

クラウドサービス要求工学の提案

南山大学 数理情報学部 情報通信学科

2008MI148 森下 月菜

2008MI284 米澤 麻衣子

指導教員 青山 幹雄

目次

- 背景と問題点と目的
- 関連研究
- アプローチと提案方法
- 提案プロセス
- 今後の課題
- まとめ

背景と問題点と目的

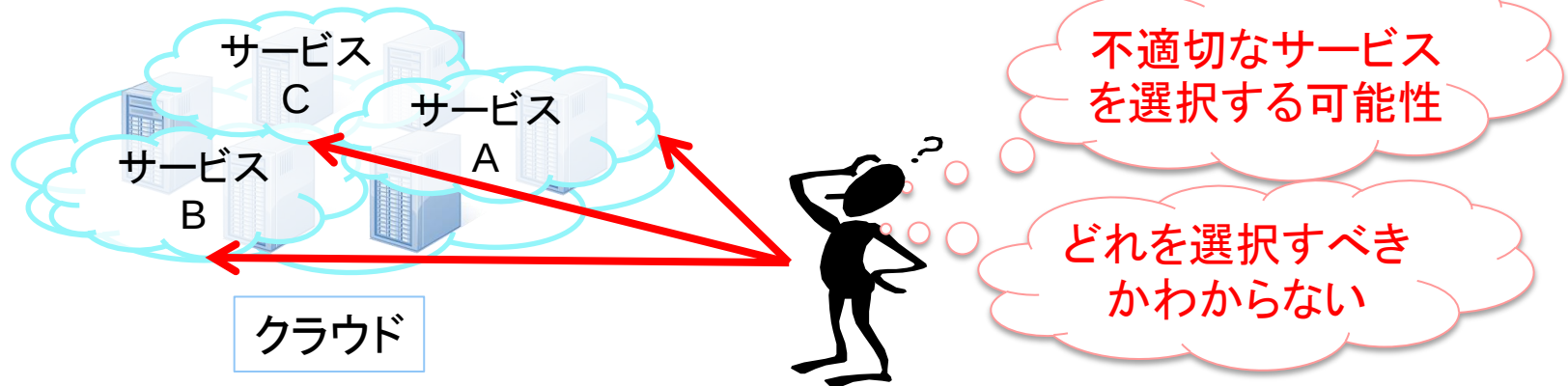
背景

クラウドサービスの利用が増大

- 最適なクラウドサービスの選択がクラウド利用時に重要

問題点

- サービス選択時に性能やセキュリティを把握できない
 - ➡ 要求にそぐわないサービス選択を行ってしまう
- サービスの選択方法についての方法論が欠如している



目的

- コンシューマにとって最適なクラウドサービスの選択方法を提示
 - サービスを選択する基準として, SLA*を利用することが有用

* SLA = Service Level Agreement

関連研究 (1/2)

サービスレベル [1]

- サービスプロバイダが提供するサービスの品質を明示的, 定量的に定義
例) サービス稼働率, サービス時間, ディスク容量, セキュリティ etc.



24時間356日利用可,
99.95%稼働,
SSL利用 etc.

SLA (サービスレベルアグリーメント) [1][2]

- サービスレベルを形式的に記述した文書
- ベンダとユーザ間で合意された文書

SLAの例 ~ Google Apps SLA [3] ~

Google Apps SLA:

Google Apps 契約の期間中、各月の99.9%以上の時間、Google Apps 対象サービスのウェブインターフェースが機能し、お客様が利用できるようにするものとします。Google が Google Apps SLA を満たしておらず、かつお客様が本 Google Apps SLA に基づく義務を満たしている場合、お客様は下記のサービス クレジットを受けることができます。

...(中略)...

Google Apps SLA の免責:

Google Apps SLA は、本 Google Apps SLA を明示的に除外するあらゆるサービスには適用されません。また、(i) 本契約の「不可抗力」に記載されている要因によって引き起こされた、または(ii) Google の一次的な管理下にはないお客様および/または第三者の設備機器に起因するパフォーマンスの問題にも適用されません。

[1] 経済産業省, サービスレベルアグリーメントの書き方, 2008, http://ecompliance.co.jp/materials/SystemQuality/CSV_seminar_19.html.

[2] 古川 博康, SLAの作成法~サービス・レベル・アグリーメント~, ソフト・リサーチ・センター, 2008.

[3] Google Apps SLA, <http://www.google.com/apps/intl/ja/terms/sla.html>.

関連研究 (2/2)

クラウド選択に対するゴール指向要求工学アプローチ [4]

SLAやベンチマークなどの文書を利用し、要求に合致したクラウドサービスを選択

要求工学プロセス

Core Requirements

Candidate Cloud
Service Providers

Elaborate the
Requirements and
Negotiate with Cloud
Service Providers

Discard cloud
that does not
satisfying
requirements

Requirement
Documentation
and Management

クラウド選択プロセス

Goals

Specify Goals

Cloud Service
Provider

Assess the
features of Cloud
Service Provider

Perform
Matching

Analyse
mismatches and
Manage risks

Select Cloud
Service Provider

問題点

1. SLAの利用方法が不明確
 - (a). SLAと要求の整合方法
 - (b). SLAに基づくサービス選択の方法
2. 交渉は人に依存
 - (a). クラウドでは従来の交渉が行えない
 - (b). 形式的に要求定義を行えない



形式的に要求定義を行い、
サービス選択をすることが大切

アプローチと提案方法

アプローチ

交渉の代わりにSLAを用い、コンシューマにとって最適なクラウドサービスを選択

本研究の概要図

コンシューマ



(1) 要求獲得, 分析

1. 要求を引き出し, 分析を行う

(2) SLA照合

2. 分析を終えた要求とSLAの照合を行う

(3) サービス選択

3. トレードオフを考慮し, クラウドサービスを選択

(4) 要求仕様化

4. 要求仕様書を作成

SLA

クラウド

サービス
A

サービス
B

サービス
C

提案する箇所

前提

- エンタープライズシステムを対象
- 各クラウドサービスプロバイダからSLAが提供されている

提案プロセス (1/4)

要求獲得

ステークホルダの識別

現状システムの理解

現状システムのモデル化

ゴールとゴールを達成する手段の抽出

実現すべき将来システムのモデル化

要求の記述と詳細化

要求分析

要求の分類

要求の構造化

クラウドサービスへの要求の割り当て

要求の優先順位付け

クラウドサービス選択で重要な箇所

SLA
照合

機能要求によるSLAの絞り込み

非機能要求によるSLAの評価

選択したサービスのコスト、利益の計算

照合先がまだある

Yes

No

サービス
選択

要求に基づいたサービスの優先順位付け

クラウドサービスの選択

社内運用とクラウド運用の比較

Yes

クラウドの方が
優れている

No

クラウド利用へ

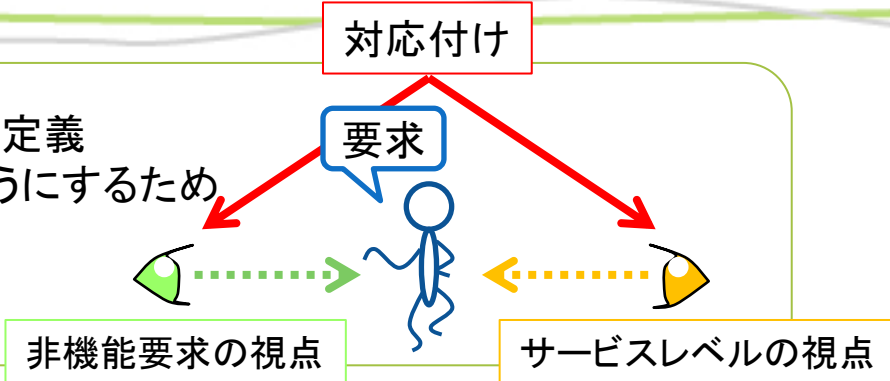
クラウド未使用へ

要求仕様化

提案プロセス (2/4)

要求の分類

- ✓ 非機能要求とサービスレベルの対応関係を定義
 - 要求工学でサービスレベルを扱えるようにするため

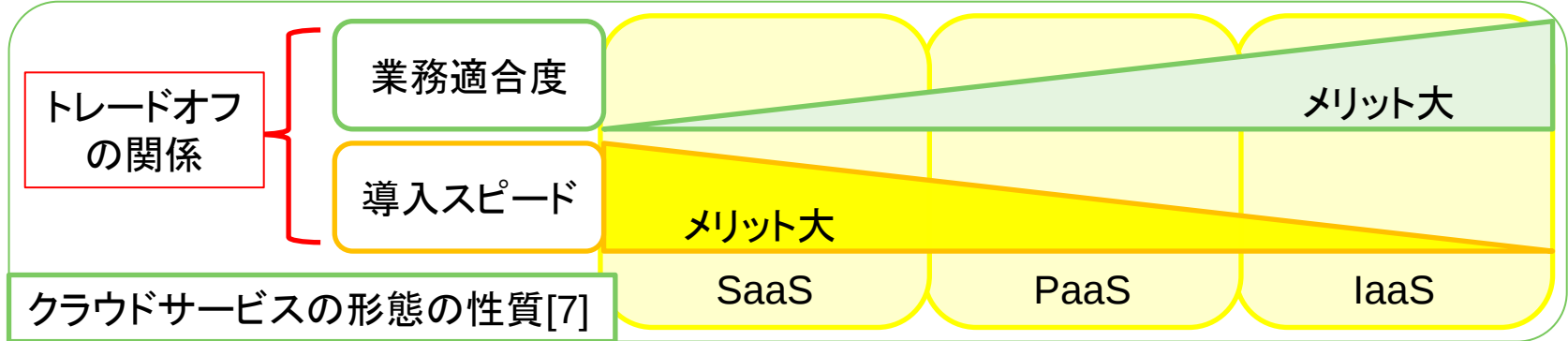


非機能要求 (ISO/IEC 9126) [6]		サービスレベル	
品質特性	品質副特性	サービスレベル項目	分類
機能性	セキュリティ	公的認証取得の要件, アプリケーションに関する第三者の評価, 情報取得者の制限, 情報取り扱い環境, 通信の暗号化レベル	セキュリティ
	相互運用性	外部接続性	拡張性
保守性	変更性	カスタマイズ性	
	解析性	障害監視間隔	信頼性
信頼性	成熟性	平均故障間隔	
	回復性	平均復旧時間	性能
効率性	時間効率性	オンライン応答時間, バッチ処理時間	
	資源効率性	システム資源使用率	

提案プロセス (3/4)

クラウドサービスへの要求の割り当て

- ✓ トレードオフとサービスの利用目的により, サービス形態を決定
 - サービス形態特定のために, コンシューマの要求を割り当て



クラウドサービス形態特定のための主要要求

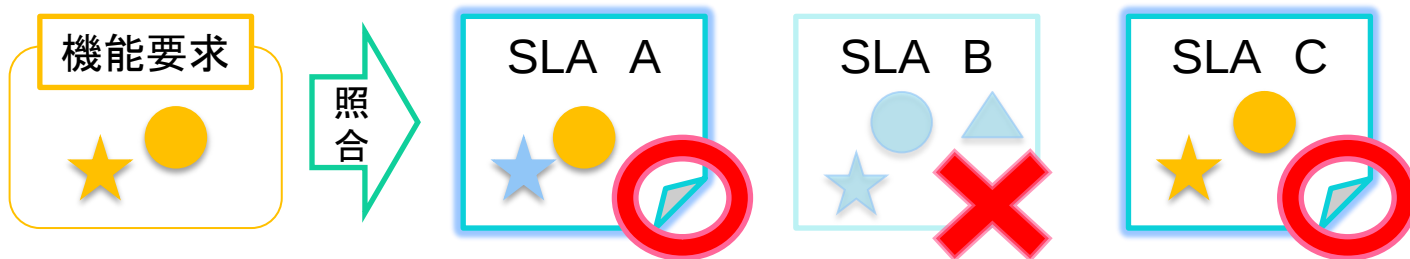
クラウドサービス形態		割り当てる要求
形態別要求	SaaS	• 早期に導入 • 開発コスト, ITスキルを削減 • 運用コストを削減
	PaaS	• 早期にアプリケーションを提供 • 開発コスト, ITスキルを削減
	IaaS	• 業務に適合したものを構築
形態共通要求		• 必要な時に必要な容量を確保

[7] SaaS/PaaS/IaaS とは, 2011, <http://itpro.nikkeibp.co.jp/article/Keyword/20110216/357282/>.

提案プロセス (4/4)

機能要求によるSLAの絞り込み

- ✓ 機能要求を用い、全てのSLAから優先順位の高い要求を含むSLAを抽出



1. 機能要求で、SLAを絞り込む
2. 機能要求が合致するSLAをSLA照合で利用

絞り込んだ
SLA

非機能要求によるSLAの評価

- ✓ 非機能要求を用い、SLA項目との一致度合いを調べ、スコアを付加



1. 照合を行うSLAに対し、非機能要求を照らし合わせる
2. 要求のスコアを算出

今後の課題

非機能要求とサービスレベルの対応関係の定義

- ✓ 対応関係について、より広範囲に定義

SLA照合の詳細定義

- ✓ SLAの照合方法について、詳細を定義

提案方法の妥当性, 有用性の確認

- ✓ 検証範囲と実例として用いる対象を定義
- ✓ 実例を用いて提案方法を検証



まとめ

背景

- ✓ クラウドサービスの利用が増大

問題点

- ✓ 選択時に性能やセキュリティを把握できない
- ✓ サービスの選択方法についての方法論が欠如

提案方法

- ✓ SLAを用いた, クラウドサービス選択のための要求工学アプローチ

今後の課題

- ✓ 非機能要求とサービスレベルの対応関係の定義
- ✓ SLA照合の詳細を定義
- ✓ 提案方法の妥当性, 有用性の確認

クラウドサービス要求工学の提案

ご清聴ありがとうございました.



南山大学 数理情報学部 情報通信学科

2008MI148 森下 月菜

2008MI284 米澤 麻衣子